

「ちょっとあなた、ここは喫煙禁止区域ですよ。」  
いつものように学校へ向かう途中、穏やかなはずの町から騒がしい声が聞こえてきた。どうやら町の人達が喧嘩をしているらしい。喫煙禁止区域を表したマークを前に、清掃ボランティアの人の話を無視して時々反論しながら堂々とたばこを吸うおじさんを見て、少し気分が悪くなった。私は最近、保健でたばこの危険性についての授業を受けたばかりだった。たばこを吸う、という行為は思っていた以上に様々な健康被害に繋がることを知り、喫煙についてもっと色々な知識を身に付けたいと思っていた矢先の、町の小さな事件。でも、最近では昔より喫煙者が減ったように思える。なぜだろう。私は気になって調べてみる事にした。

調べてみると、様々な喫煙対策を政府が行っている事がわかった。受動喫煙の対策のため、屋内では喫煙室でないとならばたばこを吸う事ができなかつたりする。また、たばこの広告や包装の表示に規制をかけていたりもする。なるほど。私は趣味で、父が若い頃にビデオテープに録画していたドラマを観たりするのだが、ドラマの間のCMには必ずと言って良いほどたばこの商品がある。それに、ドラマの中の登場人物がたばこを吸っているシーンもよく観る。最近のドラマにはほとんど喫煙シーンがないから、それも喫煙対策による社会の移り変わりが現れているのだなと思った。

色々調べているうちに、「たばこ税」という税金があることを知った。たばこを購入する事で発生した税金は、様々な用途で私達の生活に役立てられているようだ。じゃあ、もしたばこに税金がないと、たばこ一箱はどれくらいの値段になるのだろうか？私は思わず気になってしまった。すると、たばこ一箱・二〇本入りが五八〇円の場合、その税額は、定価の約六一・七%占めていることがわかった。という事は、たばこに税金がなかったら、一箱二二〇円ほどで手に入る事になる。約二〇〇円でたばこを買う事ができる世界……私はなんだか恐ろしくなった。たばこ税は、ただの財源ではない。値段を上げる事でたばこの消費を抑制し、私達の健康を守るという役割があるのだ。

私にとっての税金のイメージは、集めたお金を使って社会に役立てる、というものだった。社会が良くなるために、値段が上がるのは嫌だけど仕方なく払う。私はそうやって欲しい物を買う時に、消費税を払っていた。しかし、たばこ税のように、値段が上がる事そのものが良い結果に繋がる場合がある事を知った。集めたお金を使うだけではなく、物の値段をコントロールする事で直接私達の生活を守る役割がある事を。今日もまた一つ、驚きと発見があった。私はもっとお金の仕組みが知りたくなってきた。また明日調べてみよう。驚きと発見を求めて。